

ICTを活用して、
こんな研究に取り組まれています！

CASE 01

明確な授業デザインを
持った上でのICT活用
三次市立三和小学校
(広島)



三和小学校では「論理的に考え表現する力を育てる授業の創造」を研究主題に、ICTを活用した国語科、算数科の授業改善に取り組んできました。2年間の研究では、全員が年に3回以上の研究授業を行い、思考力・表現力を育成するためのICT活用にチャレンジしました。また、校内研修の行い方や部会の運営方法を見直し、全員が主体的に参加できるようしくみづくりにも注力されました。研究主任の先生は、2年の研究を終えこのようにおっしゃっています。

「助成によって、本校のICT環境は飛躍的に充実しました。様々な授業改善にチャレンジできたのも、環境によるところが大きいと思います。この2年間で得たものは、「ICT環境」も勿論ですが、「みんなで考え、作り上げる研究の風土」そのものではないかと思っています。」

三和小学校は、今回の助成を通して、県内外の多くの学校と交流をしてきました。今後もこの2年で育んだ研究風土をベースに、学校研究をさらに活性化し、積極的に発信し、研究交流の輪を広げ、深められるようにしていきたいとのことです。

※三次市立三和小学校は、平成20～21年まで特別研究指定校の助成を受けられていました。

CASE 02

ICTの効果的な活用に
学校全体で取組む
練馬区立中村西小学校
(東京)



中村西小学校では、ICTを効果的に活用して、学習内容の共通理解を図り、話し合いの中でさまざまな考え方に気づかせながら表現する楽しさを味わう子どもの育成を目指しています。

中村西小学校の先生はこのようにおっしゃいます。

「表現する楽しさを味わう子の育成を研究主題として、校内研究をすすめています。次第に、**児童の進んで発表しよう、工夫して発表しようという気持ちが高まってきました。**そこで、情報提示や比較などを効果的な授業場面ととらえ、ICTを活用して普段の授業を充実させることで、表現力・思考力を培っていきたくと考えています。

アドバイザーである玉川大学堀田先生からは、普段の授業でICTをどう活用していくか、分かりやすいご指導をいただき、「なるほど」と次の実践へ意欲を高めています。」

本助成で、各教室に実物投影機とプロジェクタ、スクリーンを設置。ベテランの教師が率先して「これは、いいわ。」「便利だわ。」と声をあげました。ICT機器が導入されたことで、**教員同士のコミュニケーションが増え、雑談がいつの間にか研究談義へと移っていく**ことも。教師の意識が変わってきたことを実感しているそうです。

※練馬区立中村西小学校は、平成22年度より特別研究指定校の助成を受けられています。

実践研究助成を受けた先生からの感想

パナソニック教育財団から実践研究助成をいただいたことで、**プロジェクターや児童の学習用パソコン、校内LANなどを整備することができました。**これらを活用することで、教師も児童も教科書を活用した学習活動、自主学習をもとにした

家庭と学校との学びの連続に、力を入れて取り組むことができるようになりました。

(岐阜 本荘小学校)



特別研究指定校としての2年間は、本校の教員にとっても、子供たちにとっても、**大変有意義であり、充実した2年間だった。**(富山 山室中部小学校)

学力向上という大きな目標に向かって、**地域ぐるみの体制を整えられたことは、何よりの成果だと感じる。**(東京 平山小学校)



本校の教員はICTを活用することを苦手としている人が多く、本当に研究が進むのか不安な出発だったが、**地道ながら着実な成果をだすことができてきた。**教師のレベルがアップするとそれはすべて児童に還元されていく。現在、一部の教員だけでなく、**全教員がICT機器を活用して充実した授業が行えるようになった。**(香川 府中小学校)

本助成研究によって、本校の研究は**すいぶんパワーアップ**しました。研究助成によって、本校の**ICT環境は飛躍的に充実**しました。ICTがいつでもすぐ使えるような環境が整っている学校は、

そうはありません。本校が様々な授業改善にチャレンジできたのも、環境によるところが大きいと思います。

(広島 三和小学校)



お問い合わせ先

公益財団法人

パナソニック教育財団

〒105-0001 東京都港区虎ノ門一丁目1番10号 第2ローレルビル6階
Tel.03-5521-6100 Fax.03-5521-6200

パナソニック教育財団URL

<http://www.pef.or.jp>

パナソニック教育

検索

申請は
インターネット
限定

平成**24**年度
(第38回)

実践研究助成のご案内

ICTを活用した校内研究の推進を
応援します！



37年間で
2484件の
助成実績！

あなたの学校ではこんな悩みを抱えていませんか？

校内研究を進めているが・・・

- 教室のICT環境が不十分
- 研究を深めるための十分な予算がない
- 大学の研究者からのアドバイスが欲しい
- 他校との交流をしたいがきっかけがない

そんな悩みを

“実践研究助成”で解決できます！

公益財団法人

パナソニック教育財団
Panasonic Education Foundation

実践研究助成 3つの特徴

1.

1年間で 50万円の助成により ICT環境や 校内研究が充実



1年間の研究に対して50万円を助成いたします。実物投影機を全学年に揃えたり、デジタル教科書を購入するなど、ICT環境を大幅に充実させることができます。また、ICT先進校の視察や紀要の充実などにより校内研修の活性化を図ることも可能です。また、2年間で150万円を助成する「特別研究指定校」制度もございます。

2.

学校間の交流を サポート。 交流による研究内容の 深まりを支援



助成金贈呈式や成果報告会での他校との交流により、自校の取組みの参考にしたり、研究を進める上での課題を共有するなど、自校の取組みがより深まるように支援をしています。

3.

教育現場に精通した 第一線の研究者からの 的確なアドバイス



贈呈式・成果報告会では、大学の研究者からのアドバイスを受けることができます。研究を進める上での留意点や学校全体に波及させる際の課題などについて、幅広い知見を得ることができます。また、「特別研究指定校」は、専任のアドバイザーの訪問アドバイスを期間中6回、受けることができます。

学校の実践計画に対して助成します。

助成概要

一般	
概要	学校が設定する自由なテーマでの研究計画を募っています。掲げたテーマに対し、組織的にアプローチし、成果をあげることが期待しています。
助成内容	1年間の研究に対し1件あたり 50万円
助成件数	70～ 80件 程度
応募資格	小学校・中学校・高等学校 特別支援学校 教育研究グループ 教育センター・教育研究所 在外教育施設

特別研究指定校	
概要	学校が抱える普遍的なテーマについて、モデル的に取り組む学校を募集しています。全校体制で継続的に取り組んでいただき、そのプロセスや成果についても広く公開していただけます。
助成内容	・2年間の研究に対し1件あたり 150万円 ・期間中6回程度、財団が指名する大学の先生による訪問アドバイス
助成件数	6件 程度
応募資格	小学校・中学校・高等学校 特別支援学校 (※ただし在外教育施設を除く)

応募方法

パナソニック教育財団 公式サイトから研究概要や実施計画などをご申請いただけます。手続きの詳細は、下記サイトでご確認ください。

<http://www.pef.or.jp>

パナソニック教育

検索

申請は
インターネット
限定

応募受付期間

2011年12月1日(木)～2012年1月31日(火)

結果発表 2012年3月中旬(予定)

よくある質問

- Q** 去年はどのくらい応募がありましたか？
- A** 〈一般〉〈特別研究指定校〉あわせて、330件の応募があり、そのうち77件が採択されました。
- Q** 個人での応募はできますか？
- A** 実践研究助成は、個人研究を対象とするものではなく、組織(学校や教育研究グループ)による研究を対象としていますので、団体単位での応募をお願いします。
- Q** 複数校の教職員でグループを作り、研究を行なっています。研究グループでの応募はできますか？
- A** 〈一般〉については、教育委員会、教育研究所・教育センターあるいは、研究代表者の所属校などの公的機関の推薦が得られ、研究の責任者・活動拠点が明確であれば応募が可能です。ただし、〈特別研究指定校〉は、学校単位での応募になりますので、研究グループでの応募はできません。
- Q** 2つの助成制度(「一般」と「特別研究指定校」)に応募することはできますか？
- A** 残念ながら、2つの制度に重複して応募することはできません。応募資格、助成内容をご確認いただき、いずれかをご選択ください。
- Q** はじめて応募するので申請書の書き方がわかりません。
- A** ご心配ありません。毎年、半数以上が初申請の団体です。申請書の書き方や応募のステップについてはホームページに詳しい情報がございますので、ぜひご一読ください。
- Q** ICTの活用は授業での活用に限られますか？
- A** 学校課題の解決にICTを効果的に使うのであれば、授業での活用である必要はありません。今までにも校務や学習評価にICTを活用したり、情報発信の手段として活用するなど、様々な事例がございます。ぜひ過去の助成先の研究課題をホームページでご覧ください。